

令和7年度鳴門市撫養小学校学校評価アンケート結果と考察

鳴門市撫養小学校

1 学校評価の流れ

(1) 児童・保護者アンケート実施 令和7年12月5日(金)～12月15日(月)

アンケート調査項目は、全市共通の「学校評価鳴門プラン」に基づき、学校独自調査項目を加えたものとし、回答フォームを配信して入力していただいた。

※回収率 R4 児童 99.2 % 保護者 90.6 %

R5 児童 94.3 % 保護者 78.0 %

R6 児童 100 % 保護者 85.8 %

R7 児童 98.8 % 保護者 70.3 %

児童用調査項目 21項目

保護者用調査項目 19項目

(2) アンケート結果集計

回答フォームに入力していただいた回答を集計し、グラフ化する。

(3) 「自己評価」の集計

① 校内でアンケート集計結果を考察し、それを基に、鳴門プランと学校の自己評価をまとめる。

② 自己評価結果をもとに学校関係者評価資料を作成する。

(4) 「学校関係者評価」を2月20日(金)学校運営協議会において実施。

学校運営協議会委員により「自己評価」を評価する。

関係書類 1 令和7年度鳴門市撫養小学校学校評価アンケート結果と考察

2 学校評価鳴門プランに基づく学校自己評価表(案)

(5) 「評価結果の報告と公表」を行う(3月上旬)

鳴門プランをまとめ、報告書を作成し、市教委へ報告する。校内では「学校関係者評価」結果をもとに公表文書を作成し、保護者へ配付するとともにホームページに掲載し結果を公表する。

2 児童アンケート集計結果の考察

※年度後の数値は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計した割合)

◎は5ポイント以上の上昇 ○は5ポイント未満の上昇

—は1ポイント未満の増減か同じ

△は5ポイント未満の下降 ×は5ポイント以上の下降

問1 学校へ来るのが楽しい

R4 81.7% R5 86.5% R6 81.1% R7 **91.0%**



好評価の割合が、昨年度より大幅に上昇した。「学校が楽しい」と感じる背景には、楽しい状況があること（プラス要因）と、嫌なことがないこと（マイナス要因）がある。全ての児童が学校を楽しく感じられるよう、「いいね！プロジェクト」や「いいね！があふれる掲示板」など、児童のよさを認める活動に取り組んだ成果が表れている。これからも児童のよさを認める活動を継続し、「いいね！」があふれる学校づくりを目指していきたい。

問2 先生や友だちなどに進んであいさつをしている

R4 84.8% R5 77.6% R6 80.0% R7 **81.5%**



昨年度より上昇した。学校のスローガンに「あいさつを大切に」を入れ、全校朝会や朝・帰りの会、道徳の授業など全校で取り組んできた。「いいね！があふれる掲示板」でもたくさんの子の名前が挙がっている。どの子もあいさつがしっかりできるよう、継続して取り組んでいく。

問3 安全にはいつも気をつけている

R4 96.1% R5 95.5% R6 94.7% R7 **93.9%**



昨年度から横ばいであり、高い水準にある。学校のスローガンに「あんしん・あんぜんを大切に」としている。特に道路における飛び出しや水辺での遊びなど、ちょっとした気の緩みが重大な事故を招くことを、常に指導し続けなければならない。引き続き「自分の命は自分で守る」ことの定着を図っていきたい。

問4 あとしまつ（整理や整とん）ができています

R4 83.9% R5 82.1% R6 83.0% R7 **86.4%**



昨年度より、上昇した。スローガンの中に「あとしまつを大切に」を入れて取り組んでいる。また、フェーズフリーの観点からも身の回りの整頓の大切さを児童に浸透させてきた。引き続き学校と家庭が連携し、望ましい生活習慣を育てていくことが重要と思われる。

問5 自分には、長所（よいところ）がある

R4 81.8% R5 80.5% R6 77.5% R7 **81.5%**



昨年度より上昇した。「いいねがあふれる楽しい学校」のスローガンのもと、認め合い高め合う集団作りをめざして取り組んでいる。これからも結果に結びつけるよう、児童のよいところを認めていく教育活動を展開したい。

問6 係や当番の仕事などに、責任を持って取り組んでいる

R4 92.4% R5 91.9% R6 92.8% R7 92.6%



昨年度から横ばいであり、高い水準にある。そうじの時間に見回ると、どの子も一生懸命に取り組んでいる。教員も「いいね！があふれる掲示板」に挙げたり、声かけしたりするなど、その頑張りを認めるようにしている。このように、自分の仕事に責任を持ち、最後まで取り組むことのできている子を認め、自己肯定感を高めていきたい。さらには、6年生における3L活動へとつなげていきたい。

問7 うまくいなくても、ねばり強くがんばることができる

R4 88.6% R5 85.4% R6 85.3% R7 84.4%



昨年度から横ばいである。児童が粘り強さを育成するために、自己の能力に応じためあてを設定し、そのめあてを達成する方法を具体的に持つような習慣をつける必要がある。家庭と共有しながら、児童のがんばりを認め、励ましていくようにしたい。

問8 早ね・早起きができている

R7 69.6%

昨年度の「朝は決まった時間に起きている」から「早く寝る」を追加して、質問内容を変更した。7割を切っていて低い傾向にある。規則正しい生活ができるかできないかは、一日の生活を大きく左右する。また、今身に付けておかなければ将来への影響も大きいと思われる。工夫して家庭への啓発を進め、望ましい生活習慣が身につくようにしていきたい。

問9 人の話は、集中して聞いている

R4 94.7% R5 91.8% R6 89.8% R7 88.9%



集中して聞くことができている割合は昨年度から横ばいである。自分の意見をもつためには、人の話を集中して聞くことが前提となるので、学習規律の定着とともに、苦手な児童に働きかけていきたい。

問10 学力(漢字や計算の力)が身につけてきている

R4 90.1% R5 90.2% R6 86.8% R7 84.0%



昨年度から横ばいである。日々の家庭学習や朝学習の時間のミニテスト等の積み重ね、タブレットなどに取り組んできたが、基礎学力の定着に向けて、さらに研修を重ね、改善して取り組んでいかなければいけない。

問11 授業中、自分の意見や考えた事を発表している。

R4 66.5% R5 60.2% R6 58.5% R7 67.0%



R3年度よりアンケート項目に加えている。昨年度より上昇したが、まだまだ、自分の考えを述べることに抵抗感を感じる児童が多いことがうかがえる。自分の考えを述べるということは、自分の考えをもつということであり、不透明な社会を生き抜くためには必要なことである。ペア学習やグループ学習等を取り入れるなど形態を工夫したり、書く活動を取り入れたりして、授業の中で自分の考えを述べる習慣をつけていきたい。

問12 自分が思ったことを、文章で書いてまとめることができる。

R7 74.5%

今年度よりアンケート項目に加えた。問11「授業中、自分の意見や考えた事を発表して

いる。」が上昇するには、「書く活動」を取り入れ、自分の意見や考えをまとめる習慣を身につけ、それをもとに相手に伝えていく必要がある。また、学力テストの記述式問題に対する苦手意識を克服していくためにも有効であると考えている。

問 13 グループで調べたり、話し合ったりする学習が好きである

R4 85.1% R5 86.2% R6 86.6% R7 79.0%



昨年度より、下降した。グループで調べたり話し合ったりする学習が少なくなってしまうと、そのよさも実感しにくいと思われる。今後とも、授業の中でグループ活動をする時間をある程度確保しながら、バランスよく取り組んでいきたい。

問 14 タブレットを使った学習が好きである

R4 92.1% R5 89.8% R6 87.5% R7 88.5%



昨年度より若干上昇した。一人一台のタブレット端末が整備され、授業中や朝学習の時間で活用している。今後は、児童の興味・関心が持続し、それを学力向上につなげることができるよう、さらに研修を進めていきたい。

問 15 すすんで運動し、体力づくりをしている

R4 82.8% R5 80.1% R6 80.3% R7 83.1%



昨年度から上昇した。6月から10月初旬にかけて、熱中症の心配があり、運動場で思いっきり遊ぶことができないことが多かった。しかし、休み時間には、運動場や体育館で体を動かす児童がたくさん見られ、全体としてしっかり外遊びをしていると感じた。異学年で遊んだり、鉄棒や一輪車で遊んだりする子ども昨年度より増えてきた。文部科学省の提案にある1日1時間程度の運動ができるよう、体育の授業との関連も図りながら、子どもたちの運動習慣定着に向けて取り組む必要がある。

問 16 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う

R4 97.3% R5 96.3% R6 98.1% R7 95.5%



好評価の割合が下降したが、引き続き高水準を維持している。しかし、否定的な回答である児童の、そう考える理由を把握し、意識を変えていくようにし取り組まなければならない。

問 17 避難訓練などには、真剣に取り組んでいる

R4 97.3% R5 96.7% R6 97.8% R7 95.5%



昨年度からやや下降したが、高い水準にある。実際の訓練の様子を見ても、ほとんどの児童が集中して取り組んでいる。特に1月の避難訓練では、業間休みに実施したにもかかわらず、どの子どもも真剣な態度であった。命に関わることなので、全ての子に危機意識を強く持たせることができるよう、引き続き指導していきたい。

問 18 先生は、授業を分かりやすく教えてくれる

R4 97.3% R5 94.3% R6 95.5% R6 94.7%



肯定的評価の割合は、昨年度よりやや下降したが、大きく9割を越えた児童が分かりやすい教え方であると認識できるのは、学習中に先生の話をよく聞いていることであり嬉しい結果である。GIGA スクール構想により、一人一台のタブレット端末が整備され、使用頻度も高まってきている。今後とも子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくりに努めたい。

問 19 先生は、がんばったときにほめてくれる

R4 91.7% R5 90.7% R6 92.0% R7 **92.2%**



児童のよさを認めることに主眼を置いて取り組み、高い水準を維持している。今後とも、継続して取り組むとともに、児童のよさを多面的に見ることについて研修を深め、定着を図っていききたい。

問 20 先生は、困ったり悩んだりしたときに、話を聞いてくれる

R4 93.1% R5 86.6% R6 86.5% R7 **93.8%**



好評価の割合が昨年度から大幅に上昇した。教師との人間関係は、いじめ防止の問題とも密接に関わってくる。児童が「先生は困った時に助けてくれる」という思いをもつことで、いじめの早期発見にもつながる。これからも教育相談体制、学級経営の充実に取り組む。

問 21 鳴門市や撫養のまちが好きだ

R4 90.9% R5 93.1% R6 92.8% R7 **94.3%**



質問項目に「鳴門市」を付け加えた。昨年度から上昇し、高い水準である。100円商店街でのキャリア教育や三世代交流会など、今後とも、自分たちの住んでいる地域に誇りがもてるような学習を、各学年の教育課程に位置づけて系統的に取り組んでいく。

3 保護者アンケート集計結果の考察

※年度後の数値は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計した割合)

◎は5ポイント以上の上昇 ○は5ポイント未満の上昇

―は1ポイント未満の増減か同じ

△は5ポイント未満の下降 ×は5ポイント以上の下降

問1 学校は、たよりやメール等で、情報を発信している

R4 81.7% R5 68.0% R6 75.0% **R7 97.1%**



好評価の割合が、昨年度より大幅に上昇した。これからも個人情報の保護や守秘義務などに十分配慮し、伝えたい情報と知りたい情報が相応するよう、学校だよりやメール、ホームページなどで、可能な限り発信していきたい。

問2 学校は、子どもや保護者の相談事によく対応している

R4 83.3% R5 70.9% R6 78.0% **R7 94.1%**



好評価の割合は、昨年度から大幅に上昇した。いじめは、初期対応が大切になってくる。学校と家庭が連携し、深刻ないじめの事態を招くことがないように、事案一つ一つに真摯に対応し、素早く丁寧に取り組む。

問3 学校は、子どもの生活規律の定着に努めている

R4 85.4% R5 78.1% R6 75.4% **R7 91.2%**



好評価の割合は、昨年度から大幅に上昇した。3つの「あ」の取組によって、子どもたち学習規律は学力向上とも直結する大きな問題であり、家庭との連携も大切となる。学力向上には学習規律の定着が欠かせないので、研修を積み重ね、上昇に転じていく取組をしていかなければならない。

問4 学校は、子どもの基礎的学力の定着に努めている

R4 83.3% R5 82.0% R6 82.8% **R7 90.5%**



好評価の割合は、昨年度から大幅に上昇した。基礎・基本の定着には繰り返し学習というイメージが強いが、特に定着には、学んだ内容を生きて働かせられる活用の場が重要となる。学年の発達段階に応じて反復練習を大切にしつつ、知識の活用場面を含んだ主体的で対話的な授業づくりを進めていきたい。作年度から導入されているAIドリルの有効活用もさらに図っていきたい。

問5 学校は、子どもの体力作りに努めている

R4 80.8% R5 75.9% R6 73.7% **R7 82.2%**



好評価の割合は、昨年度から大幅に上昇した。外遊びの奨励や徒歩通学の啓発等、体育的行事以外の部分でも、児童の体力を向上していくための取組を強化してきた成果が表れてきている。特に休み時間に外遊びをする児童が多く、他学年とも一緒に遊ぶ姿が見られる。

問6 学校は、人権教育（いじめのない集団づくり）に務めている

R7 87.6%

今年度よりアンケート項目に加えた。子どもたちが「あんしん・あんぜん」な学校生活を送るために、人権教育に取り組み、家庭と連携していきたい。

問 7 学校は、安全教育（事故防止・災害時避難）に努めている

R4 98.7% R5 96.1% R6 94.3% **R7 92.7%**



好評価の割合が若干下降したものの、高水準を維持している。これは、子どもの命に関わることであり、全ての方が子どもの安全に働きかけるよう啓発を継続しなければならない。

問 8 子どもは、学校が好きだ

R4 92.1% R5 81.1% R6 83.7% **R7 91.3%**



好評価の割合は、昨年度から大幅に上昇した。学校が楽しくなる要因には、人間関係や学業等様々な原因が考えられるが、学校と家庭が情報を交換し合い、一人一人の状況を的確に把握し、連携しながら、楽しい学校生活を送ることができるよう支援していきたい。

問 9 子どもは、家庭学習（宿題）をきちんとしている

R4 91.2% R5 89.8% R6 84.2% **R7 89.8%**



好評価の割合は、昨年度から上昇した。児童問 4 結果の好評価の割合が高いのは、保護者の確認によって、宿題を仕上げる事ができているからと考えられる。これからも家庭学習（宿題）ができているかどうかの確認やそこの言葉かけなどについて継続してもらえるよう働きかけていきたい。

問 10 子どもは、何事にもがんばって取り組んでいる

R4 67.1% R5 68.4% R6 65.3% **R7 92.0%**



好評価の割合は昨年度から大幅に上昇した。。粘り強さが弱いと、自己憐憫や、他者非難に結びつきやすい。粘り強さを身に付けていくためには、学校生活はもちろん家庭での応援、励ましも大切だと思われる。子どもたちのがんばりを学校と家庭がともに認めている成果が表れてきている。

問 11 子どもは、自分のすべきことを自分でしている

R4 84.2% R5 81.1 % R6 76.3 % **R7 79.6%**



好評価の割合は、昨年度より上昇した。自分の身の回りのことを自分でするという事は自立への第一歩であり、小学校卒業までにしっかりと身に付けておいてほしいところである。今後とも、好評価の割合が上昇するよう、家庭に啓発し、取り組んでいきたい。

問 12 子どもは、家族や友達などに進んであいさつをしている

R4 80.3% R5 74.3% R6 74.2% **R7 79.6%**



好評価の割合は昨年度から上昇した。学校での児童のあいさつがよくなってきている。家庭でも児童がしっかりとあいさつができるよう、啓発してきた。あいさつは人間関係を作る上でも大切なものであり、少しでも気持ちのよいあいさつが定着するよう、家庭と連携しながら取り組んでいく。

問 13 子どもには、ルールを守る意識が育っている

R4 92.9% R5 91.7% R6 89.9% **R7 92.7%**



昨年度より好評価の割合が上昇した。今後も集団生活を通してマナーやルールを理解させ、守る意識を育てるとともに、人間関係力などを育むことを継続したい。

問 14 子どもは、人のことを大切にすることが育っている

R4 94.6% R5 93.7% R6 91.6% **R7 92.7%**



昨年度より上昇し、高い水準で推移している。本校が取り組んでいる人権教育や道徳教育をご家庭で理解していただき、子どもの心の教育に取り組んでいる成果である。さらに高まるよう家庭と連携して取り組んでいきたい。

問 15 子どもと、学校での出来事について話している

R4 80.1% R5 77.2% R6 77.2% **R7 84.7%**



好評価の割合は、昨年度から大幅に上昇した。話す・聞くは車の両輪であり、子どもは聞いてくれる環境が整っていないと進んで語ろうとはしない。今後も家庭に啓発していきたい。

問 16 子どもと、社会や将来のことを話し合っている

R4 65.9% R5 72.8% R5 69.3% **R6 70.1%**



好評価の割合は、ほぼ横ばいである。主体的に生きていくようにするためにも、中学や高校、大学、仕事などに関して楽しい話を聞かせること、さらに教職員や保護者が人生や生活を楽しむ姿を見せること、社会や将来のことを語ることを啓発していきたい。

問 17 子どもと、交通安全や防災のことを話し合っている

R4 67.5% R5 68.9% R6 63.6. % **R7 80.3%**



ここ数年、低い割合で推移していたが、今年度に昨年度より好評価の割合が大幅に上昇した。いざという時に備え、避難場所の各何、家庭での防災についての話し合いは重要な課題である。引き続き、啓発を図っていきたい。

問 18 子どもがよいことをしたときは、積極的に褒めている

R4 95.0% R5 94.2% R6 93.9% **R7 96.3%**



昨年度と好評価の割合は、上昇し高い水準にある。自己有用感、自分以外の者から、特に家族から肯定的に受け入れられることによって育まれる。学校はもちろん、保護者や地域への啓発も続けていきたい。

問 19 家庭として、学校行事やPTA活動などに参加している

R4 67.9% R5 71.4% R6 78.1% **R7 86.6%**



昨年度に比べて、好評価の割合が上昇した。コロナ禍の影響で減少していたPTA活動がR5年度から復活し、参加する方がだんだんと増えている。PTA活動の活発な学校であり、だんだんと元の姿に戻りつつあると感じる。

